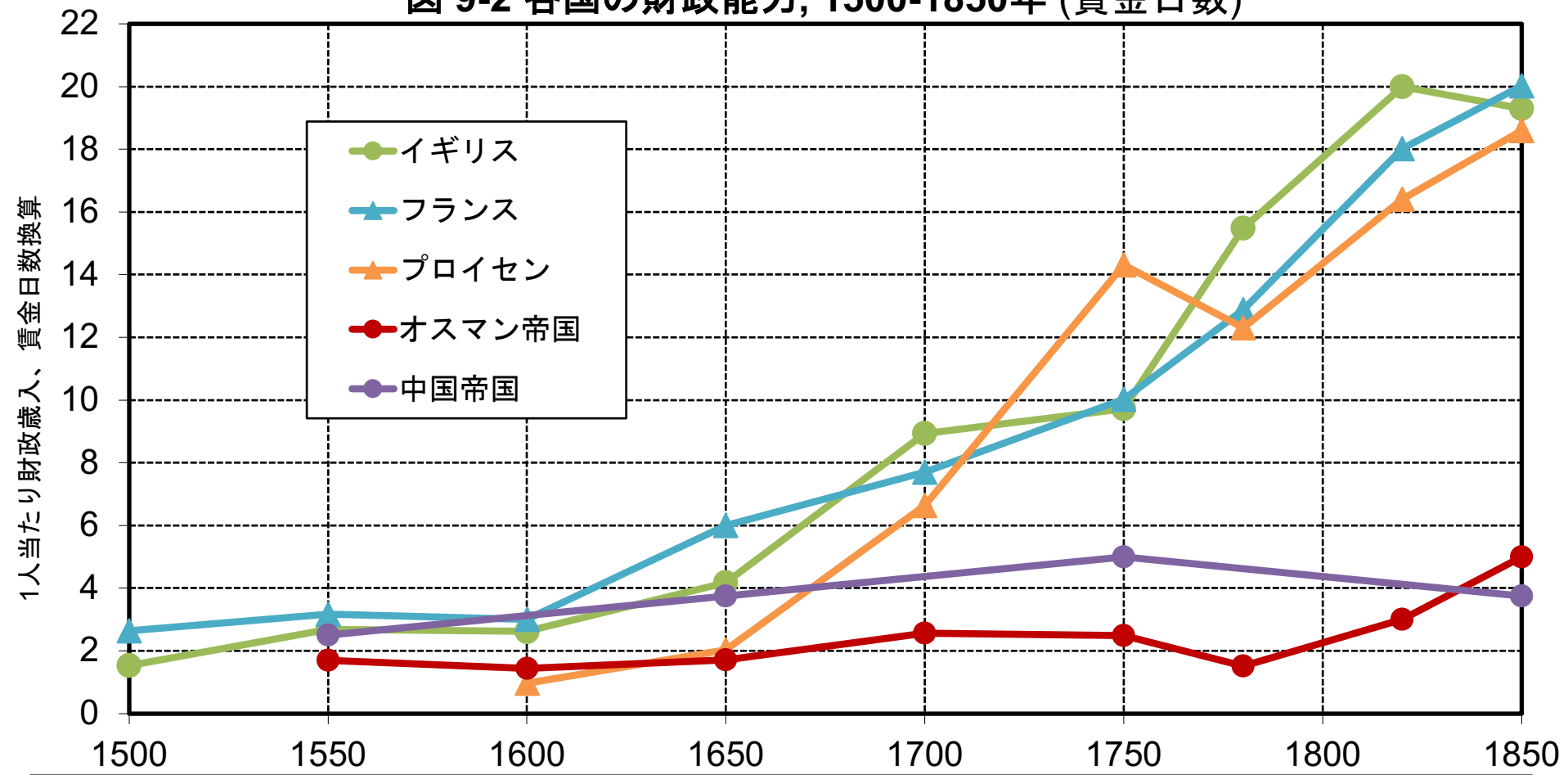


図 9-2 各国の財政能力, 1500-1850年 (賃金日数)



解釈. 1500-1600年頃、ヨーロッパ主要国の国民1人当たり財政歳入は、未熟練都市部労働の2-4日分だった。1750-1780年には、未熟練労働 10-20日分になった。オスマン帝国と中国帝国では、1人当たり財政歳入は2-5日分に留まった。1人当たり国民所得は未熟練都市部労働250日分ほどと推計されるので、これは中国とオスマン帝国での税収が国民所得の 1%-2% で停滞していたのに、ヨーロッパでは国民所得の1-2% だったのが6-8%に上がったということだ。出所と時系列データ: piketty.pse.ens.fr/ideology 参照。